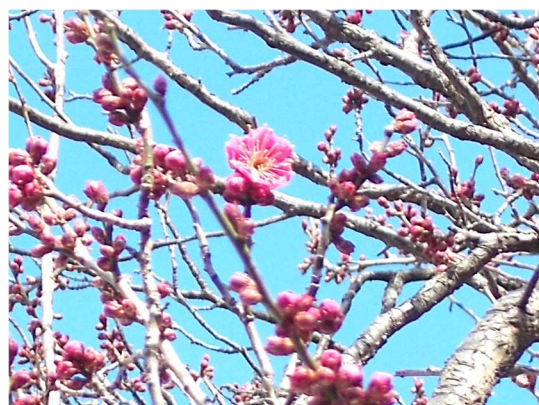




## 「がんばれ」の力

副校長 橋口 三幸

朝、校舎の窓を開けると5年生の田んぼの横の池が凍っているのが見えます。一年で一番寒い時期です。一方、正門の横の梅の木は、いつの間にか、かわいらしいピンクの花を咲かせ始めています。もうすぐ来る2月4日は「春が立つ」と書いて春の季節の始まりであるとされる立春です。寒さの中にも春はすぐそこまでやって来ているようです。



正門前の紅梅

さて、少し前の話になります。その日は所用があり、お昼前に学校を出ましたが、ちょうど児童の下校時間と重なりました。正門を出て横断歩道を渡ると、細い道の先に乗る予定のバスが止まっているのが見えました。思わず走り出すと、その道を歩いていた子どもたち15人くらいが一斉に声をかけてくれました。「副校長先生、がんばれ！がんばれ！がんばれ！」もちろん子どもたちはバスに間に合うように応援してくれたのですが、実はその時期は個人的に良くないことが続き気持ちが沈んでいたもので、前から、そして後ろから聞こえる子どもたちの応援の声に本当に励まされました。前向きにならなければという力が湧いてきたのです。（お蔭様で、バスにも間に合いました。）他の人からもらう「がんばれ！」の力って大きいなと実感しました。

昨今、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、iPadなどのICT機器を利用して、家庭でも先生や友達と相互にやり取りしながら学習を進められるように準備が着々と進んでいます。（先日の接続状況アンケートへのご協力ありがとうございました。）しかし、いくら家庭にいながら学校と変わらないような学習ができるようになって、学校に来て友達と一緒に生活することは欠かせないことであると思います。実際に顔を合わせて、「がんばれ」「ありがとう」「凄いな」「上手だね」と声を掛けたり、掛けられたりすることによって、次への意欲や自分への自信が湧いてくるのです。時には友達の言葉によって傷ついたり、逆に自分の不用意な言葉によって友達を傷つけてしてしまうこともあるかもしれません。そんな時も目を見て「ごめんね」と伝えることで分かり合えるのではないのでしょうか。『友達はいいいもんだ』という歌の歌詞に「一人はみんなのために」「みんなは一人のために」とあります。誰かの言葉に背中を押され、「友達はいいいもんだ」と思える、学校はそんな場所でありたいです。

2月になり今年度も残すところあと2か月となりました。6年生は今日を入れて登校する日はあと33日、1年生から5年生はあと37日です。「1月は行く、2月は逃げる、3月は去る」というように慌ただしく過ぎがちですが、学校生活の1年間を締めくくる大切な時期でもあります。子どもたちには慌ただしさや拡大しているコロナ禍の不安に流されることなく、落ち着いて学習に取り組み、そして先生や友達からの「言葉の力」をたくさん受けとって、自信と希望をもって進学や進級をしてもらいたいです。